膠原病・リウマチ内科

（スタッフ）

部長：柴冨　和貴

（診療実績）

2016 年 7 月より腎臓・膠原病内科が腎臓内科と膠原病・リウマチ内科に分離していますが、実際の診療は腎臓内科のサポートを得て行っています。

また、特に ANCA 関連血管炎は腎臓病変を主徴として発症することが多いため腎臓内科で加療となる場合が増えています。

さらに 2020 年 4 月の外来化学療法室の拡張に伴い、生物学的製剤の点滴などを入院治療から外来化学療法に移行したため総入院数の減少がみられました。

COVID-19 のパンデミック下にあり患者のできるだけ外来で治療を行ってほしいという要望はさらに強まっており、その要望に応えるかたちで当科の診療は外来に主軸を置いている状況です。

（研修・教育）

当科は腎臓内科と共同で研修医のスーパーローテーションを担当し、多数の研修医の教育に従事しております。

2021 年の初期研修医のローテーションは以下のとおりでした。

柴田　稔文先生　：１月
西川　匠　先生　：２月、３月
山中茉莉夢先生　：２月
大嶋　諒太先生　：４月、５月、６月
郡　　奈央先生　：４月、５月
野嶋　紗帆先生　：７月、８月
丸山　莉果先生　：８月
児玉　洋資先生　：10 月
佐藤　実歩先生　：10 月、11 月
山下　もも先生　：11 月
福田　貴仁先生　：12 月
萩原　晟彦先生　：12 月

（今後の方向性）

現在、腎臓内科のご協力を得て診療体制を構築しています。膠原病、リウマチの診療は次々と画期的な新薬が登場して、以前のようにすべての治療はステロイド頼りというイメージは変わりました。

たとえば、SLE の患者さんは初期治療が成功すればステロイド中止に至る例も着実に増えてきています。

当科でもリウマチ、膠原病の薬剤によるコントロールは全体的によくなってきており、入院よりも、外来で開業医の先生方、院内他科の先生方からのコンサルテーションを受ける業務の比重が年々高くなってきています。

当院の膠原病、リウマチ専門医は柴冨一人でありますので、地域の病院との連携を重視しております。大分大学、九州大学病院別府病院、大分赤十字病院をはじめとした大分県内の膠原病リウマチ専門の先生方と協力して、よりよい診療を目指しておりますので皆様方のご協力をお願い申し上げます。

（文責：柴冨和貴）

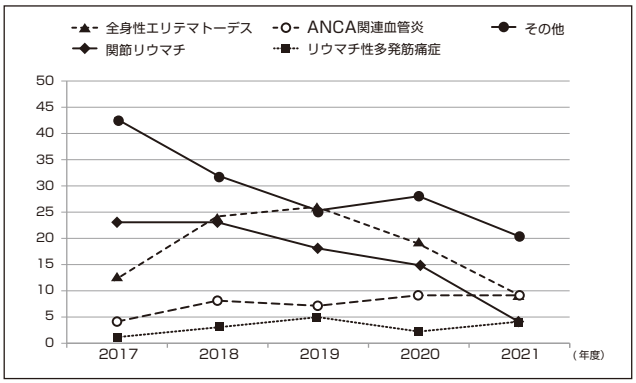

図 1　疾患別当科入院患者数

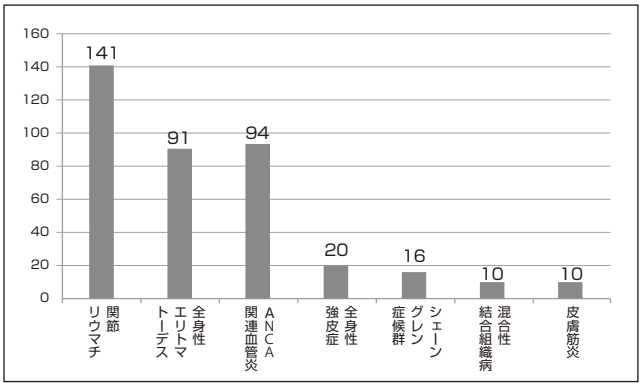

図 2　2021 年における疾患別当科外来患者数
（2021 年より集計開始）